

□問題点

サケの遡上時期になるとヒグマが出没し、撮影のために多くのカメラマンが集まる。

- ・ 路上駐車する車が増え、一般車の通行が阻害されて交通渋滞が深刻化している。
- ・ 一部のカメラマンが危険な距離まで接近している。ヒグマの警戒心が薄れて問題個体化し、人との軋轢リスクが高まる。

□自然公園法第37条に係る取組状況

- ・ 令和4年4月の改正自然公園法第37条に基づき、ヒグマへの著しい接近・近距離でのつきまとい・餌やりは禁止。
- ・ 特にイワウベツ川では、ヒグマの待ち伏せも禁止しているため、令和7年9月12日より町道岩尾別温泉道路に注意喚起の看板と監視カメラ1台を新たに設置し、カメラマン等の滞留を予防するための取組を開始。

□巡視等体制の強化（令和7年9月13日～10月下旬）

- ・ イワウベツ川では、監視カメラ等の設置に併せ、環境省職員等によるヒグマへの著しい接近行為等への指導を強化。
- ・ 知床ヒグマ対策連絡会議と協力し、イワウベツ川沿いに特化した巡視を1日2回実施（環境省職員ほか）

□現在の状況（令和7年10月1日現在）

- ・ 岩尾別橋から監視カメラ設置箇所までの区間で、ヒグマ撮影を目的とした駐停車車両やうろつく者はいない状況が続いている。監視カメラでもヒグマ撮影者の長時間の駐停車や待ち伏せ行為は確認されていない。

□関連事項

- ・ 令和7年9月より、北海道大学・知床財団が町道岩尾別温泉道路沿いに監視カメラを3台設置。タイムラプス撮影により、イワウベツ川周辺での車の滞留・人流を調査・分析予定。

イワウベツ川沿い道路の監視カメラ設置地点

